令和６年度由利本荘市地域づくり推進事業活用

西洋音楽の伝道師／由利本荘市・旧東由利町出身

# 小松耕輔生誕 140 年メモリアルコンサート

2024.6.30（日）

由利本荘市文化交流館カダーレ大ホール

14：00 開演

主催／小松耕輔音楽兄弟顕彰会

**後援／由利本荘市**

# ～　プログラム　～

## 第一部　　記念講演「小松耕輔の時代と人脈」

講師：小林 義人（『西洋音楽の伝道師 小松耕輔物語』編著者）

－休憩－

## 第二部　　コンサート「小松耕輔作曲のピアノ曲と歌曲」

演奏：山崎 圭子（ピアノ）、田口 昌範（テノール）

ピアノソナタ　ト長調

母（作詞：竹久夢二）

泊り舟（作詞：北原白秋）

雀おどり（作詞：北原白秋）

冬の夜（作詞：西條八十）

朝（作詞：三木露風）

砂丘の上（作詞：室生犀星）

## 第三部　　特別レクチャー

「声楽家 田口昌範による声の出し方レクチャー」

どうすれば良い声が出るの？気持ちよく歌いたい！！
唱歌『ふるさと』を会場の皆様と♪

### ふるさと

一、うさぎ追いし　かの山
小ぶなつりし　かの川
夢は今も　めぐりて
忘れがたき　ふるさと

二、いかにいます　父母
つつがなしや　友がき
雨に風に　つけても
思いいずる　ふるさと

三、志を　果たして
いつの日にか　帰らん
山は青き　ふるさと
水は清き　ふるさと

# ～　出演者プロフィール　～

■　小林 義人（記念講演）

1951 年生まれ。北海道出身。元新聞記者。2014 年 7 月から 2018 年 3 月まで、由利本荘通信部で嘱託記者を務め、地域の歴史や文化、人々の営みを紀行連載「子吉川の四季」にまとめた。札幌市在住。

■　山崎 圭子（ピアノ）

秋田県立秋田高校、桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業。1985 年全東北ピアノコンクール第 1 位、文部大臣賞受賞。秋田市文化選奨、木内音楽賞、秋田県芸術選奨を受賞。秋田県を中心にソロ演奏のほか、室内楽ではベルリンフィル管楽アンサンブルをはじめとする多数のアーティストと共演、協奏曲では秋田市管弦楽団等のオーケストラでソリストを務める。2024 年 9 月、アトリオン音楽ホールでのリサイタルシリーズ 10 回目を開催予定。指導では聖霊女子短期大学、秋田大学教育文化学部非常勤講師を経て、現在も後進の育成にあたっている。

■　田口 昌範（テノール）

秋田市出身。東京藝術大学大学院修士課程独唱科修了。在学中 3 年連続定期演奏会ソロを務める。バッハ作曲『ヨハネ受難曲』『マタイ受難曲』、ヘンデル作曲『メサイア』、ハイドン作曲『四季』『天地創造』、ドヴォルザーク作曲『スターバトマーテル』など様々な時代のソリストを務める。2014 年秋田県で行われた国民文化祭開会式において、現・天皇陛下の御前にて国歌独唱を務めた。現在、発声技術を生かし、様々なジャンルの曲を歌う Live 活動を行い、声楽を広める活動をしている。

## **小松音楽兄弟**について

- **小松 耕輔**（二男・1884～1966）

  東京音楽学校卒業。学習院、東京女子高等師範、日大、お茶の水女子大で教授を歴任。昭和天皇の唱歌担当でもあった。日本最初の歌劇『羽衣』をはじめ、歌曲や童謡を多数作曲し、また日本音楽教育界の先達としても活躍した。

- **小松 三樹三**（四男・1890～1921）

  帝国劇場管弦楽部のバイオリニストとして活躍。大正オペラの振興に尽くした。

- **小松 平五郎**（六男・1896～1953）

  慶応大学経済学部卒業。国民交響楽団を創設。帝国美術学校、日大などで音楽を教えた。大日本作曲家協会、大日本音楽協会理事を歴任。

- **小松 清**（七男・1899～1975）

  東京帝大仏文科卒業。東大、東京藝大、東海大で教授を歴任。フランス文学と音楽の双方で実績を残した。ユネスコ国内委員、日本作詞作曲協会長などを務めた。

# 小松耕輔生誕140年メモリアルコンサートによせて

小松耕輔音楽兄弟顕彰会会長　小松 義典

今から約140年前の明治17年12月14日、音楽の女神ミューズが由利郡玉米村舘合（現在の由利本荘市東由利）の我が家に舞い降りました。小学校時代に聞いたオルガンの音色、自分も作曲をしてみたいと思い、親を説得し音楽の道に進みました。

西洋音楽を伝え誰もが音楽を楽しめるように、また音楽家の社会的地位を守るために現在のJASRAC（日本音楽著作権協会）の元になる組織を作り、音楽コンクールを始めるなど、亡くなるまで音楽の普及に尽くした小松耕輔の誕生です。その節目の年に、このような会を開催できることは、大きな喜びであります

小松耕輔音楽兄弟顕彰会では、秋田大学名誉教授で作曲家の四反田素幸氏を顧問に迎え、専門分野からのご助言をいただき、平成26年11月に小松耕輔生誕130年記念市民音楽祭を開催し、平成29年には**『小松耕輔生誕130年記念誌』**を発行しました（この記念誌により顕彰会は同年度の秋田県芸術選奨特別賞を受賞）。

そして令和4年に**『マンガふるさとの偉人 西洋音楽の伝道師 小松耕輔物語 』**の制作に当たり、「由利本荘市マンガ製作・活用検討委員会」の構成委員として資料提供し、素晴らしい漫画が出来上がり、県内の学校等に配布しました。同じく令和4年に漫画の原作となる**『西洋音楽の伝道師 小松耕輔物語』**（小林義人氏編著）を発行しました。

本年3月にはウェブサイト**「小松耕輔WEB音楽堂」**が開設されましたので、今後、小松耕輔とその兄弟の業績は、より広く全国の方々にご理解いただけるものと期待しております。私どもの会は少人数で小さな会ですが、音楽の持っている力を信じ、大きな夢と志を抱いて活動をしています。耕輔が21歳の時に作曲した日本初の歌劇『羽衣』の再演に向け頑張っています。

まだまだ知らない耕輔像と、素晴らしい演奏を皆様に楽しんでいただきたく、今日このような会を開きました。どうぞお楽しみください。これまで顕彰会活動にご理解ご尽力いただいた多くの方々と由利本荘市に感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

---

小松耕輔の詳しいプロフィールはウェブサイト**「小松耕輔WEB音楽堂」**をご覧下さい。下に記載のORコードからアクセスできます。このサイトでは耕輔とその兄弟に関する資料や顕彰会が発行した冊子をご覧いただけます。また耕輔が作曲した作品の演奏の動画や耕輔自身の肉声も公開しています。この機会にぜひご覧下さい。

（お問い合わせ：小松歯科医院 TEL.0184-69-3838）

# 小松耕輔の時代と人脈

2024 年 6 月 30 日
小林義人

秋田が生んだ音楽家・小松耕輔とは、どんな人物だったのか。
詩人たちとのつきあい、生まれ育ったふるさと、
明治という時代、友人、家族。
人脈とエピソードに、その人となりや魅力を探る。

## ＜１＞　《詩人たち》

詩は曲を付けられて、新しい命が吹き込まれる。コンサートで登場する詩人と、作曲家・小松耕輔との人間味あふれる交流。

・北原白秋：仕事も酒も終生のつきあい。白秋の死に水とる
・室生犀星：「遠きにありて思う」ふるさとへの愛に共感
・竹久夢二：母への思いを夢二の「母は悲しも」に重ねて作曲
・三木露風：早くから親交を結び、文学論や音楽論を交わす
・西條八十：ともにフランス流派。愛娘にピアノをレッスン

## ＜２＞　《ふるさと》

東由利の土地柄と明治という時代性から、小松耕輔の人格形成を考える。自立自尊の精神風土、前向きな時代性、耕輔自身の天与の才。この３つが絡み合って音楽家・小松耕輔を創った。「作曲だけにとどまらず、広い視野で社会的活動を続け、蒔いた種を育てて」（四反田素幸氏）、時代と社会における音楽家の存在意義を確立した。

左から小松耕輔、梁田貞、葛原しげる

## ＜３＞　《友と酒と親》

人間的魅力を洒脱な酒と友垣、家族の絆に見る。盟友葛原しげると梁田貞、恩師山田源一郎。鷗外、漱石から昭和天皇へと連なる華麗な人脈。

人への恩義を胸に「生きてる限り、ただ学べ、ただ働け、それ汝の生きる道なり」(耕輔の日記)。

音楽に殉じた人の覚悟と潔さ。８１年の春夏秋冬には華が…。

＜小松家の人々＞

父・平蔵（1853～1922）
増田村（現横手市）の旧家・東海林家の生まれ。縁戚の小松家８代目・松三郎の両親が早くに亡くなったため、養父として小松家へ。玉米村長や郡会議員を務め、１９１１年頃、朝鮮へ

母・トミ(1860～1936)
矢島町土屋家の長女。１６歳で小松家へ。夫とともに旧本荘藩の国学者・幡江晃に短歌と漢学を学ぶ

長男・耕三（1877～1877）
生後２か月で夭折。次に生まれた耕輔が、事実上の長男となる

次男・耕輔（1884～1966）
東京音楽学校（現東京芸術大学）を首席で卒業。在学中に創作オペラ「羽衣」を発表。学習院で昭和天皇に音楽を教える。フランス留学を経て東京女子高等師範（現お茶の水女子大）教授。音楽コンクールや日本音楽著作権協会の生みの親

３男・翠（1887～1970）
東京高等工業学校（現東京工大）卒。商社マンとして、長く米国に勤務した。当時を述懐した録音テープが残っている

４男・三樹三（1890～1921）
指揮者、バイオリニスト。大正初期の浅草オペラ座で活躍、オペラの振興に尽くす。耕輔の外遊中に死去。妻は舞踏家の澤モリノ

５男・千年太郎（1892～1937）
義理の叔父の三吉に養子入りして、北海道の岩内へ。地元の村役場に勤務。一時、父平蔵がいた朝鮮で稲作を指導し、父の最期を看取る

長女・チヨ（1893～　　）
兄弟たちとともに東京の耕輔宅で暮らす。フランス留学を終えた耕輔を横浜港に出迎えている。建築家と結婚

６男・平五郎（1896～1953）
指揮者、作曲家。慶応大卒。玉米に戦時疎開して村の助役を務め、「ハタハタ音頭」「由利小唄」「舘合小学校校歌」などを作曲

７男・清（1899～1975）
東京音楽学校から東大へ。東大、東京芸大で教授。仏文学者にして音楽家。日本作詞会長、ユネスコ国内委員、日本音楽学会理事